

## 2-5 草はら

草はらとは、カヤ場と呼ばれるカヤ葺き屋根の材料を採集していた場所や、畦や土手など定期的に草刈りや火入れの行われる場所です。定期的に草刈り等が行われる場所には木が生えず、長い間草はらとして維持されており、草はら特有の植物が生えます。たとえば秋の七草として有名なキキョウ、オミナエシのほか、リンドウやセンブリなどが生育します。しかし、屋根材のカヤや、肥料としてすき込む草の需要の減少に伴って、大規模な草はらがなくなり、これらの植物も現在では絶



島根県大田市 三瓶山の野焼き

滅のおそれが指摘されています。それでも、もともと土壤に栄養分の少ない土地の水田の畦や切り通しの斜面には今でもキキョウ、オミナエシ、リンドウ、センブリなど草はら特有の植物がわずかに残っている場合があります。このような場所では、これまで行われてきた草刈りや火入れの時期や回数を守って作業するといった、昔ながらの維持管理の継続が求められています。



定期的な刈り取りや火入れのある草はら